

令和4年度の教育活動等に対する学校評価書

令和5年 3月9日

学校法人頌徳学園三和幼稚園長 金原 順一

学校法人頌徳学園三和幼稚園学校関係者評価委員代表 齋藤 早苗

1 幼稚園の教育目標

生きる力（自ら判断し実行する力）などの基礎を育み 豊かな心を培う

元気で明るくのびのびした子ども

情操豊かな子ども

友達を遊べる子どもを柱として、よく見てよく聞いてよく考える子の育成をする

2 本年度の重点目標

- ・ 幼児一人ひとりの理解と幼児の遊びや生活に合った指導計画の作成
- ・ 職員の資質向上

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価対象	評価項目	評価	取り組み状況
教育目標	職員全員が共通理解しているか	A	このまま共通理解をしていきながら今後も計画して行ってほしい。
保育のあり方・幼児への対応	幼児に合った指導計画と改善に努めているか	B	昨年やってきた計画をそのまま実行してしまい、実態にそぐわない計画もあった。 改善点…幼児の実態を前年度担任も交えて様々な角度から把握し指導計画を組んでいく必要がある。
教育計画	行事の種類や頻度を見直し新しい案を取り入れるなどしているか	B	行事や園外保育が重なってしまうなどあらかじめ決めておいた行事に振り回されてしまったことがあった。改善点…内容や時期にしっかり余裕を持たせていく。
保護者・外部対応	挨拶や話し方、立ち振る舞いはどうであったか	B	電話対応、職員間で一方的な伝え方になっていた。伝え方により不快な思いやうまく関係性を築けていなかったこともあった。 改善点…前任者としてしっかり引き継ぎながら、保護者の対応をしていく。また小さなことでも報告をし合いながら、共通理解を深めていく。
研修と研究	研修への参加体制の充実と研修結果の還元に努めているか	B	公開保育や外部講師を交えて実技研修を行った。実技はすぐに実践できるのだが、座学は日が経つにつれて忘れがちになるので、研修レポートで報告をした。 改善点…短時間でも研修回数を多くして身に着くようにする

A	十分成果があった	B	成果があった	C	少し成果があった	D	成果がなかった
---	----------	---	--------	---	----------	---	---------

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教育目標に向かい、職員の共通理解のもと行うことができた。しかし、外部対応などの立ち振る舞いは、人によって差がうまれていたので、今後、質の高い教育を目指す中で、今後の反省と課題のもと実践する項目が明確になった。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
職員の資質向上と幼児への理解	挨拶など基本的な立ち振る舞いを身に着け実践していく。 エピソードを出していきながら、幼稚園教育要領と見合わせていく
安全・安心な教育活動	安全をチェックし合い、再確認・再検討していく。バスなどは装置などを付けて安全を確保していく。 公開保育で見合ったり、保育の中で、気になる子や言動など伝えあえる環境づくりをしていく。

6. 学校関係評価委員会の評価

コロナ過から少しずつ開放され、改めて行事が見直され、メリット・デメリットを見極めて、今後の活動に活かしてほしい。職員によって、共通理解ができていないことを感じたので、課題にもあるように、立ち振る舞いや活動のねらいを共通にしていくと更に、よい組織づくりができ、園児にもきめ細かい教育ができていくのだと感じる。今後も期待しつつ発展を祈る。

令和5年3月 8日 学校関係者評価意見委員の意見を次記の通り報告します

令和4年度 三和幼稚園 学校評価委員代表 齋藤 早苗

